

令和元年 11 月 1 日

「日本一住みたいまちづくり、20 年後の為に今なすべきこと」への提起

飯綱町議会第 4 次政策サポーター会議

担当：福祉文教常任委員会

◎ はじめに

年号が変わり令和の時代になったが、私たち福祉文教常任委員会が担当した「第 4 次政策サポーター会議」では、町の人口について、自然増が見込めない中で社会増を図るにはどうしたらよいか
に力点を置いて議論を重ねた。

飯綱町は平成 27 年 10 月に「飯綱町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、地方創生事業を取り入れてきた。そしてその流れを踏まえ、飯綱町らしさを追求して平成 29 年 3 月には町の指針となる「第 2 次飯綱町総合計画」を策定した。それによると令和 22 年には町の人口が 8, 806 人とされている。殊に合計特殊出生率においても人口維持の目安とされる 2. 08（人口置換水準）を飯綱町は 0. 7 ポイントほど下回っている。また、2015 年の統計では若年女性率（20～39 歳）も全国の 11. 4%より下の 8. 2%（県内 51 位）である。町においては、これらの要因を分析し、人口減少対策について、様々な施策を展開し、不断の努力をしている。

当委員会サポーター会議では、まずは総合計画の重点目標である「日本一女性が住みたくなる町へ」を達成することを念頭に置き、前期基本計画に示された 6 項目（自然、遊ぶ、創出、安心、安全、交流）に沿って、その中から、**I 自然（自然を守る・自然に親しむ）** 地元住民のみならず誰もが憧れる美しい自然環境、それらの保全を保つための方策を考え、**II 安全・安心（暮らし・子育て・福祉・公共交通）** 町民はもとより、転入者にとっても実際に住みよい多様性に溢れた町にしていくために、2 つの大きなテーマを設定し、議員と年齢的に 20 歳ほど若い世代（サポーター）の方と現状を確認し意見を交した。そして、町の将来を背負って立つ次世代にバトンを継承していくには、町の施策に何が必要か、また、私達住民も行政に対してどのような関わり方をしていけばよいかを検討した。サポーターの方は地元出身者 2 名の他は転入者であり、他の地域で暮らしたことの経験を踏まえた意見等は、町内を中心に長年生活している者にとって気が付かない外からの視点で捉えたものであり、相対的で偏ることのない意見であった。

以下はその報告である。

テーマⅠ 自然（自然を守る・自然に親しむ）

目標

第2次飯綱町総合計画の基本理念は「あふれる自然 共に豊かな暮らし創生」である。豊かな自然と共に、先人から受け継いだ歴史・文化に対し、町民が誇りを持ち、今の環境をできるだけ保ち、急変する時代の動きの中、IT技術の進歩や人々のライフスタイルの多様化を踏まえた上で、町外から訪れる人が羨ましく思えるような町の将来像を模索しながら、今ある自然と共に町の存続を進めることとした。

現状 【誇りに思うこと】

- ① 土や木々、自然があふれ四季感が素晴らしい。
- ② 四季折々の風景が美しい。寂しすぎず適度な里山感は都会からも移住者を迎えることができる。北信五岳の素晴らしい展望があり、町には飯綱山・斑尾山と身近に山がそびえ、森林浴にも適した地形である。
- ③ 自然の恵みの豊かさと美味しい農産物がある。
- ④ りんごのある風景・田園風景・山並み、ごみごみせず人の少ない美しい自然の中で、静かに落ち着いた生活ができる。

問題点（課題）

- ① 温泉・リゾート地があるが、宿泊施設が少ない。
- ② 雪が多く除雪が大変。寒いので暖房費がかかる。
- ③ 里山の整備がされなくなり荒廃地が増え、鳥獣被害が増えた。
- ④ 農薬や洗剤による河川の汚染が進み、魚が住まなくなった。
- ⑤ 人目の少ない山林への不法投棄が見られる。
- ⑥ ソーラー設置により景観への配慮がされていない。
- ⑦ 町には素晴らしい歴史があるが、それらに対する町民の歴史・文化への知識が乏しい。町に訪れる人に語るができない。

町には、歴史上400年以上も経過した町の宝・財産がある。一つは、城山（髻山城跡、矢筒城跡、鼻見城跡、若宮城跡）そして、北国街道。各地に街道の名残があり、特に江戸・加賀の中間点に当たる武州加州道中堺の碑が現在の小玉集落に現存している。また、三水地区の農業を支えてきた3つの用水（芋川用水、倉井用水、普光寺用水）の存在も大きい。これらは400年から450年もの年月を通して、人々の暮らしと当たり前のように共存してきた。これらの素晴らしい歴史を背景として、自然と人々の良き繋がりを求め、そのための環境保全や景観面を考慮しながら、少しでも後世に引き継げるようにと議論した。

具体策

- ① 当町は有名な観光地ではないが、住みたくなる町としての条件はかなり良いと思う。それをSNSなどを活用し、住民各自がアピールする。
- ② 雪が多く、暮らしにくいイメージがあるが、雪をプラスに変えることを考える。例えば、雪を利用した雪室などの施設造りや雪遊び、ツアー、スポーツなどの実施。
- ③ 農業を守ることが荒廃地対策になる。農業大学の研修生が話を聞きに来て、就農には繋がっていない。どこに問題があるのか考え、確実に農業で生計を立てられる施策を導入する。
- ④ 自然環境を活かしたスポーツ大会を開催（サイクリング・カヌー体験等）する。

解決策・自分達ができること

- ① ホタルやかじかの復活を目指す。川を汚さないようにする。
- ② ごみ削減のため、町の分別への取組をする。ポイ捨てをしない。又、余計な買い物をしない。
- ③ 「日本一のりんごの町」として飯綱町の新しいブランドやネットワークを作り、町外等に応用する。
- ④ 町の歴史・文化・自然の大切さを自分達で学び、また、プロに学び、後世に継ぐために子ども達への伝承に努める。

提 言

- ① 20年後においても、誰もが住みたくなる町、町外の人も訪れたい町を目指して、故郷の原風景と称される現存の自然環境の保全が必要である。現在、町内の各所にソーラーパネルの設置が見受けられるが、今ある飯綱町環境基本条例・飯綱町里山保全条例に加え、町の自然環境保全のための「景観条例・自然保護条例（仮称）」を速やかに制定すると同時に、第2次飯綱町環境基本計画の見直しと、滞っている環境教育等推進協議会の活動を促進する。
- ② 町の財産である豊かな自然や町の歴史・文化を、町外から訪れる方にも知っていただくために、町民が学ぶ講座や見学会を企画して、町の「宝」を誰もが語れるようにし、また、三水用水、北国街道の案内看板整備等、町文化財ガイドマップパンフレットを制作するなどして発信する。さらに、400数十年もの昔から今日まで、長年、住民の生活を支えてきた三水用水は、世界農業遺産として認定を受けられるよう維持管理を行っていく。
- ③ 有害鳥獣対策として、針葉樹の間伐をして混合林へ転換することを推奨する。
- ④ 荒廃地対策として多面的機能支払交付金事業を全町に拡充するとともに、農業後継者の育成を図ることが喫緊の課題である。責任を持って迎える新規就農者の受入体制の強化（受入農家、技術指導、移住者に対する家族のサポート等）とともに、既存小規模農家にも補助金等を支給する施策を図る。また、生活の場としての自然の整備が必要である。里山の風景の中での作物づくりを選んでいる人のために、放置された状態の周囲の荒廃地に手を入れられるように、行政が仕組みを整える。
- ⑤ 環境に優しい農業の奨励と共に、堆肥から発生するガスやバイオマス発電廃熱を使ったビニールハウスで、新しい作物の栽培をする環境と農業を融合した施策を推進する。

テーマ2 安全・安心（暮らし・子育て・公共交通）

目標

第2次飯綱町総合計画は「日本一女性が住みたくなる町」を重点項目のひとつに挙げている。子育て・教育・福祉・公共交通からみた、安全・安心の分野から誰もが住みたくなる町を目指して話し合いを進めることとした。

子育て中の若者が望む20年後の町の姿とは…。

サポーターからの提案を参考に、十分に自由討議をしながら町への提言へと結び付けた。

現状 【誇りに思うこと】

- ① 静かな地域であり、暮らしやすい。また、人びとのおおらかさでゆったりと生活できることが最大の強み。
- ② 伸び伸びとした子育て、創作活動、野外活動ができる。大変良い環境の中で生活していると実感できる。
- ③ 保育園、学校の立地の良さや園庭、校庭が広い。
- ④ 医療施策（健康診断・人間ドック・子供医療費等）が充実している。
- ⑤ 子育て支援策が充実している。
- ⑥ 近隣市町村へのアクセスは良いが、公共交通利用では不便である。
- ⑦ ワークライフバランスを考える必要がない。（農業・自営）

問題点（課題）

- ① 多くの集落には昔ながらのしきたりが根強く残っている。それらの中には閉鎖的な人間関係（外から来た人を受け入れにくい）を感じさせるしきたりもある。
- ② 移動に車が必需品となり、燃料代などの出費が多い。
- ③ 空き家が増え、地域イベントが減る。地区の交流がなくなる。
- ④ 若者が少ない集落が増えている。
- ⑤ 農業・商業・工業を中心となって牽引してきた人が引退し、高齢化が進む。
- ⑥ 女性が行きたくなる店が少ない。また、街灯が少なく、夜間の外出に不安である。
- ⑦ 町は子育て世代の女性以外への施策があまり感じられない。
- ⑧ 自宅近くで柔軟に子供を預けられる施設などが少ない。
- ⑨ 子ども連れで遊びに来た人の宿泊施設が足りない。
- ⑩ 町の公共交通機関の運行状況等を、町民が十分把握できていない。
- ⑪ 高齢者、学生、観光客の移動に不便さがある。
- ⑫ さらに交通手段が充実すれば広い範囲が通勤圏内となる。移住者や起業者が増加し、町の活性化が図られる。

- ⑬ 来店者が多く訪れる町内直売所での接客方法について再度、検討し、もう一度訪れたくなる店づくり。

具体策

- ① 子どもが安心して遊べ、子供だけで行くことができる公園があること。
- ② 子育て支援センターを計画しているが、町外からも子供たちが集い、飯綱町へ遊びに来たくなる仕組みづくりを図る。
- ③ 高齢化・若い人の車離れにより、バス等公共交通手段のさらなる充実を図る。広い範囲が通勤圏となることで移住者誘致や起業にも繋がる。また、観光客の移動も便利になる。
- ④ 親子や人とひととの絆が大切である。集落創生事業をさらに推進する。
- ⑤ 集落機能の衰退が懸念される。区の再編について検討し、具現化する。
- ⑥ 自治会活動において、住民が平等に負担することは困難。すべての行事をできる限り見直し、住民の負担軽減を図る。
- ⑦ 年間を通して安定した収入が得られる仕事を掘り起こす。
- ⑧ 子供を育てながら働きやすい職場作りや障害者も健常者と同様に働ける職場づくりを押し図る。
- ⑨ グランピングやキャンプ場、バーベキュー場などランドデザインを一新する。
- ⑩ 公共交通がさらに充実できないのであれば電動アシスト自転車や1人乗り電動カー、カーシェアリング、カーリースを普及させる。

解決策・自分達ができること

- ① 就業のため、ワークセンター等で町の情報を得る。
- ② 人の絆が町の発展に繋がると考える。防災においては、ご近所同志の繋がりを大切にする。
- ③ 公共交通を利用するためにはアイバス（デマンド交通）の運行状況を知る。
- ④ 未来の子どもたちに、無農薬、減農薬の食物を供給したいので、正しい無農薬栽培の知識と農薬を極力使用しない土づくりを学び、実践する。

- ⑤ 地区で児童が1人の場合、様々な体験が十分にできない。親としては、昔の体験などを通して人と交わることの大切さを教えたい。子どもたちが興味を持つ自然を生かした体験ができる場を用意する。

提 言

- ① 20年後も、住みたくなる町にするため子育て環境整備が喫緊の課題である。現在、ワークセクターは、デスクワークの人が対象であるが、会議・研修・セミナーを開催できるように拡充する。
- ② 学校独自のオリジナルプログラムがなくなった。子供が夢中になれるものがあると大人も手を貸す。親子で参加する仕組づくりを拡充、推進する。町の特性を生かした教育に取り組む。
- ③ 町内にアスリートが誕生すると町外からも注目され町の将来に希望が持てる。例えば町のアップダウンの地形を利用したサイクリングやトライアスロンなどの場、大会を企画する。
- ④ 平出三本松直売所の新規オープンに向け、観光客へのおもてなしにあふれた接客ノウハウを充実し、集客に繋げるとともに、観光や特産物等の情報発信の場として機能の充実を図る。
- ⑤ 駅前整備では、魅力あるお店の出店を促し、例えば、りんご並木や季節の花に覆われた賑いある空間づくりに努める。
- ⑥ 山村留学受入れ態勢を整え、父兄も含めた関係人口づくりを図る。
- ⑦ 孫ターン政策にも力点を置き、稼業や事業後継とも絡めて、地区の衰退にも歯止めをかける。

◎ おわりに

9回の会議を経て、福祉文教常任委員会サポーター会議メンバーは、20年後も飯綱町は女性が住みやすく、誰もが幸せに包まれた町に発展していることを信じ、この報告をもって町行政の今後の施策の反映と展開に期待し、政策提言とする。

備 考

(1) サポーター

上野紀江（西黒川）、久保田譲（小玉）、栗原元彰（倉井）佐藤由佳（普光寺）、
沢井美和（福井団地）町田治樹（牟礼本町）吉澤裕昭（川上） 計7名

(2) 議会議員

石川信雄（座長）、中島和子（副座長）、目須田修、伊藤まゆみ、青山弘、
樋口功、大川憲明、清水満（オブザーバー） 計8名

(3) 会 議

第1回 平成30年11月20日

第2回 平成31年1月16日

第3回 平成31年2月5日

第4回 平成31年2月26日

第5回 平成31年4月2日

第6回 平成31年4月23日

第7回 令和元年5月21日

第8回 令和元年7月2日

第9回 令和元年8月2日